

株式投資の
秘密を大公開

完全保存

無料

特別web版

iTRADE

<必見!> もう一度…利益を上げたい投資家応援～日本株「再」入門書～

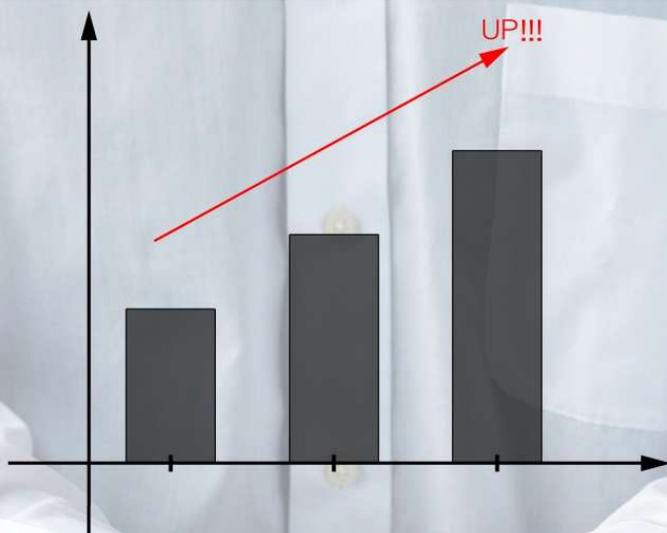
あなたは株式投資で こんな間違いをしていますか？

安く買って高く売れる投資家と…高く買って安く売ってしまう投資家の違い

なぜ、高値掴みをする投資家と、もっと上がる銘柄をつかむ投資家がいるのか？

なぜ、底値付近で買える投資家と、もっと下落銘柄をつかむ投資家がいるのか？

同じ投資家でも、なぜこのような違いがあるのか、あなたは不思議に思ったことはありませんか？その理由は…



利益をもう一度狙おう！
見落としがちな…

株価**5**の原則

11ページ

秘密を
丸ごと1冊
大公開！

【株式投資の不都合な真実】

なぜ、高値掴みをする投資家と

こんなタイミングで…
売買できますか？ 7ページ

安く買って高く売れる投資家がいる？ 8ページ

安く買って高く売れる投資家と、 高く買って安く売るしかない投資家の違い



目次

- 02 なぜ、多くの投資家が間違いをするのか？
- 03 株式投資の不都合な真実
- 08 安く買って高く売れる投資家と高く買って安く売る投資家の違いは？
- 11 利益を上げている投資家だけが知っている日本株 5 つの原則
- 30 警告!!この原則を知る前に投資をしてしまうと…

なぜ、多くの投資家が**間違い**をするのか？

あなたのように株式投資をしている投資家だけでなく、投資に興味がある多くの人が、株式投資では「底値付近で買って、天井付近で売れば最高だ！」と思い、それには「日中株価を見続けないといけない」「上がりそうな銘柄を見つけなければいけない」「専門用語や専門知識を理解していないといけない」と、間違っただけの思い込みをしています。さらに、「サラリーマンでは日中取引ができないのでダメだ」「年齢的に、板に張り付くのは疲れて無理だ」と、ひどく間違っただけの思い込みをしています。これは、私の経験値ですが、1,000人の投資家がいれば、990人以上は、このような思い込みをしているでしょう。



多くの投資家が株価の動きやニュースに踊らされて、こんな間違いをしている…

しかもこれが、利益を上げるために必要な正しい投資法だと思っているのです。そのような人は、毎日、ニュース、新聞、株価の情報に踊らされて、「あの銘柄が上がりそうだ！」と思えば、その銘柄に飛びつき、「あっちが良いらしい！」と聞けば、あっちの銘柄に飛びつき、「あのアナリストが良いらしい！」と聞けば、そのアナリストが銘柄を公開している雑誌などを買いあさるという…そんな無意味なことを続けているのです。

もしくは、、、決算銘柄や株主優待銘柄に注目し、日課のように決算発表の日程を確認し「次は、〇〇だ！」と追われるような投資生活をしている人もいます。または、「四季報」を一日でも早く手に入れることが重要だと思い込み、一日でも…数時間でも…早く店頭や並ぶ書店を探している人もいます（著名な投資家でも、そのようなことをしている人もいます）。または、「自社株買いのニュース」や「上方修正のニュース」があると、「今すぐ買わなければ！」と慌てて買い注文を

するなんてことをしている人もいます。まさに、そのような間違っただ行動を続けている可能性があります。

では、多くの投資家が株式投資に関して正しい知識が不十分であり、その不十分な株式投資の知識の結果が、あなたの利益に大きく影響を及ぼしてしまう、その理由は何でしょうか？利益を上げるには「底値付近で買って、天井付近で売らなければならない…」「株価を見続けなければならない…」「専門知識がなければならない…」「ニュースをいち早く発見しなければならない…」「四季報を一日でも早く手に入れなければならない…」と、**間違っただ常識**を持ってしまっているのは、なぜでしょうか？これらの問に対する答えは明らかです。

日本銀行内に事務局がある金融広報中央委員会の「金融リテラシー調査（2019年）」の結果、この理由が明らかになりました。ほとんどの投資家が**株式投資に関して間違ってしまうのは、あなたのせいではありません。悪いのは、あなたに間違っただ常識を刷り込んだ彼らです。**

株式投資の**不都合**な真実

どのような常識も、情報を繰り返し受けるうちに、刷り込まれることで形成されます。インターネットで情報配信する彼らは、ご存じの通り「専門家とは限りません」。彼らの中には、専門家ではないにも関わらず、あたかも専門家いるように見せて、それらしい情報を配信している人もいます。

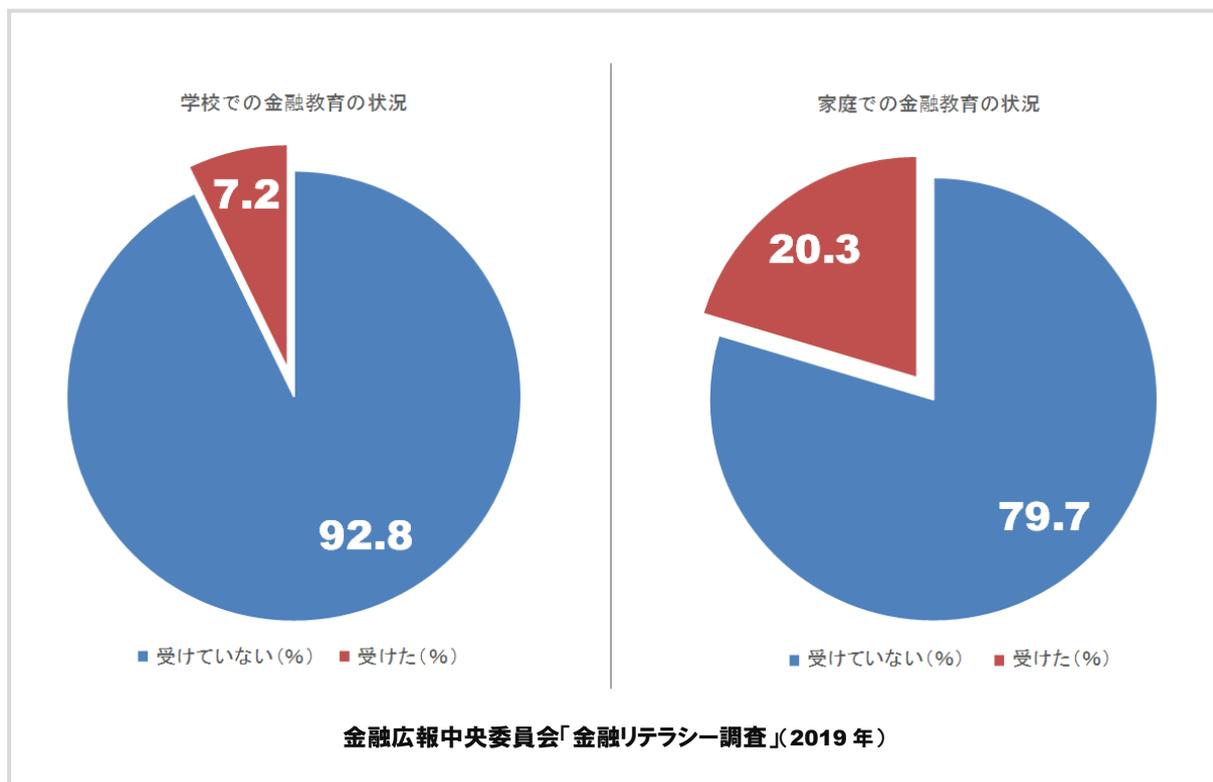


私たちは再現性や根拠がない株式投資に関する情報を、知らないうちに刷り込まれてしまっている…

中には、たった1回しか上手くいっていないにも関わらず、再現性のない間違っただ投資の知識を配信している人もいます。インターネットならまだしも、マネー雑誌などでも、再現性のない間違っただ投資の知識を取り上げ、世の中に間違っただ知識を広めてしまっている人もいます。その証拠に、継続的にマネー雑誌などに情報を掲載している投資家は、ごく一握りという実態があります。今年の特集されたが、その後は利益を上げられなくなり、もう相場から退場してしまったという人も中にはいます。つまり、私たちは再現性がなかったり、根拠がなかったりする株式投資に関する情報を、知らないうちに刷り込まれてしまっているのです…。

私たち日本人は、幼い頃から、これだけ教育制度が整った国で育ったにも関わらず義務教育の中で「お金の教育」を、ほとんどと言って良いほど受けていないというデータがあります…。ましてや、「株式投資の教育」なんて、受けていない可能性があります…。

その証拠がこちらです。「金融リテラシー調査 (2019年)」の調査によれば、全国の18~79歳の個人25,000人を対象に調査をしたところ、「学校」でお金教育を受けた人は「**たった7.2%**」でした。また、「家庭」で金融教育を受けたという人は「**約20%**」でした。



もう一度言います。「学校」でお金教育を受けた人は「**たった7.2%**」でした。それにも関わらず、多くの投資家は勉強もせず、「自分はもしかしたら株の天才かもしれない・・・」「自分もあの人のように利益を上げられるかもしれない・・・」と淡い期待を胸に、平気で自分が汗水たらして稼いだお金を、株に投資してしまう人が多い傾向にあります。いえ、もしかすると、それは投

資ではなく、投資のつもりでも、実際はギャンブルと言ったほうが良いかもしれません…

だから、**利益を上手く上げられないのは、あなたのせいではありません。悪いのは…**学校で教えていないにも関わらず、国として「貯蓄から投資へ」とスローガンを掲げていることです。そして、何よりも悪いのは…教育を受けていない、私たち個人投資家をカモにして利益を上げている「**教育を受け知識のあるプロ投資家たち**」や「**一部の人が隠す不都合な真実**」をあなたが知らされていないことでしょう。

日本は、義務教育などの一般的な教育を受けていれば、世間では「働いて給料を受け取る資格がある」と考えられ、就職さえすれば給料を毎月受け取ることができるでしょう。もちろん、これはあなたがしっかりと教育を受けているからであり、その賜物でしょう。

ですが…お金の教育はどうでしょうか？プロの投資家やセミプロのような投資家でない限り、お金の教育を受けることは全くといってよいほどないでしょう。でも、**プロの投資家は、しっかりと「お金の教育」を受けて、株式市場に立ち向かっています。**そう考えると、恐ろしいものです。株式投資の世界には、お金の教育を、しっかりと受けたプロと、全く受けていない個人投資家が混在しているのですから…

だから、彼らは**教育を受けず誤った知識を知らないうちに刷り込まれた…**私たち「**個人投資家の動きを逆手に取って**」利益を上げているとも言えます。私たち個人投資家が「買い」の動きをすれば「売り」…「売り」の動きをすれば「買い」…と、私たち個人投資家を「**利益の源泉**」にし、カモにしているとも言えるでしょう。

だから、**上手く利益が上がらないのは、あなたのせいではありません。**もちろん、「買い」注文すると「下がり」、「売り」注文すると「上がる」のも、あなたのせいではないでしょう。「今は底値だ！」と思ったら上がったたり、「今は天井だ！」と思ったら下がったりするのも、あなたのせいではないでしょう。他にも、期待して買った銘柄が思った方向に動かないのも…あなたのせいではないでしょう。その原因は、彼らと私たちが持っている情報源や知識が「**全く**」違うからでしょう。



私たち個人投資家は、マシンガンを持ったプロ投資家がいる相場に、
無防備に竹ヤリを持って挑もうとしている。つまり、それは相場に挑む前から勝負は…

例えるなら、この株式投資の世界では、常に無防備に「竹ヤリ」を持った兵士である私たち個人投資家に、プロ投資家が「マシンガン」を持って挑み、餌食にしている可能性があります。でも、多くの個人投資家は、この違いに気がつかないまま…（彼らにとってネギを背負ったカモであることに気がつかないまま…）株式投資という恐ろしい世界に足を踏み入れているのでしょ…

誰が見ても、竹ヤリを持った個人投資家と、マシンガンを持ったプロの投資家の「違い」は、歴然です。それは、もうあなた自身が強く感じていることでしょう。しかし、あなたは、もう株式投資の世界に足を踏み入れてしまいました…恐らく、もう抜けられないでしょう。

もし、抜けられるのであれば、これを読んでいないはずですが。きっと、「損を取り返すまでは引けない」「老後の資金を得るまでは引けない」など、一人一人止められない事情があるでしょう。では、どうすればあなたもプロの投資家のように利益を狙えるのでしょうか？そして、もしあなたもプロの投資家のように利益を上げることができたら、これからどのような未来が開かれるのでしょうか？そこで、その答えを知る前にあなたに質問です…

安く買って高く売れる投資家と 高く買って安く売る投資家の**違い**は？

これから、チャートを3つ挙げます。あなたは、このタイミングで買って、このタイミングで
売ることができますか？

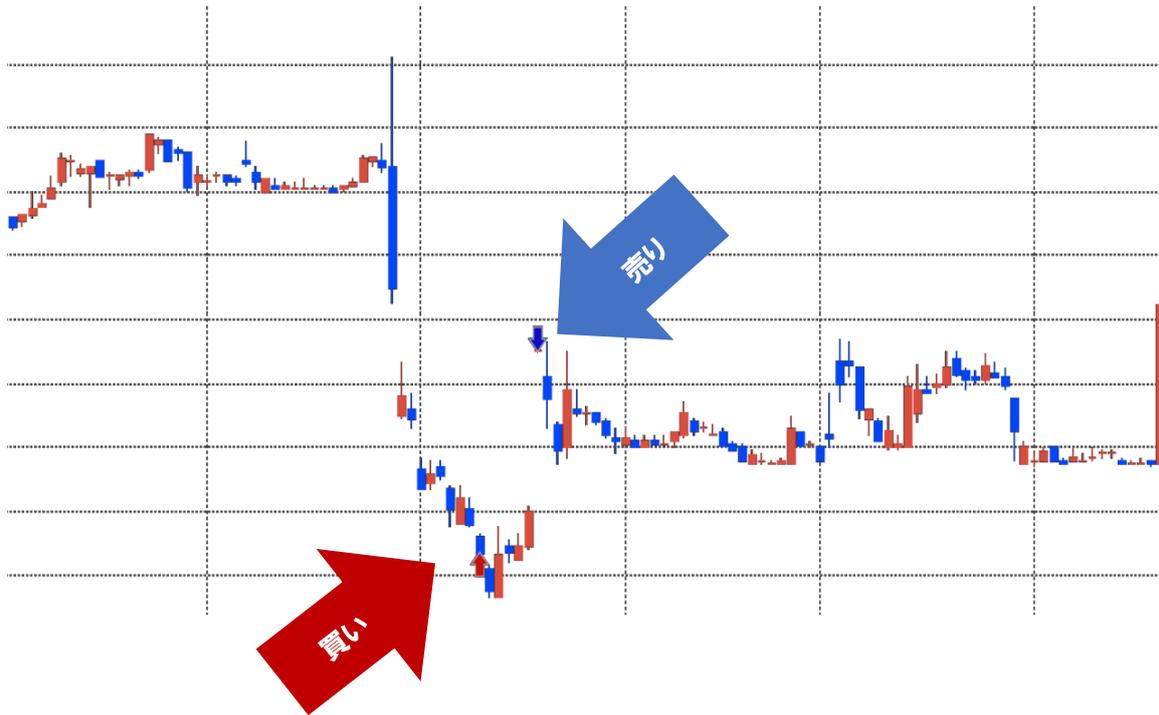
[パターン.1]このような動きをする銘柄をここで買って、売れますか？



[パターン.2]このような動きをする銘柄をここで買って、売れますか？



[パターン.3]このような動きをする銘柄をここで買って、売れますか？



短期的に見れば、これは多くの投資家が理想とする「安く買って高く売れる投資家」の売買でしょう。ですが、現実的には、株価がもっと下がりそうで怖くて絶対に手を出したくない銘柄です。というより、株式市場全体がパニックで「投げ売り」をしてしまう状況です。そんなとき、あなたは冷静に、ここで買って、ここで売ることができるでしょうか？または、どのような情報があれば、こんなことができるでしょうか？もちろん、その情報とは、、、

- ✓ インサイダー情報ではありません…
- ✓ 株価を動かすニュースではありません…
- ✓ 特殊なテクニカル指標ではありません…
- ✓ ファンダメンタルズ分析でもありません…
- ✓ 四季報を早く手に入れているわけでもありません…

もちろん、何か他の秘密の情報でもありません。どれも全く違います。多くの投資家が理想とする「安く買って高く売れる投資家」の売買ができるようになるために必要な情報は、、、

「安く買って高く売れる投資家」だけが知っている

日本株 5 の原則

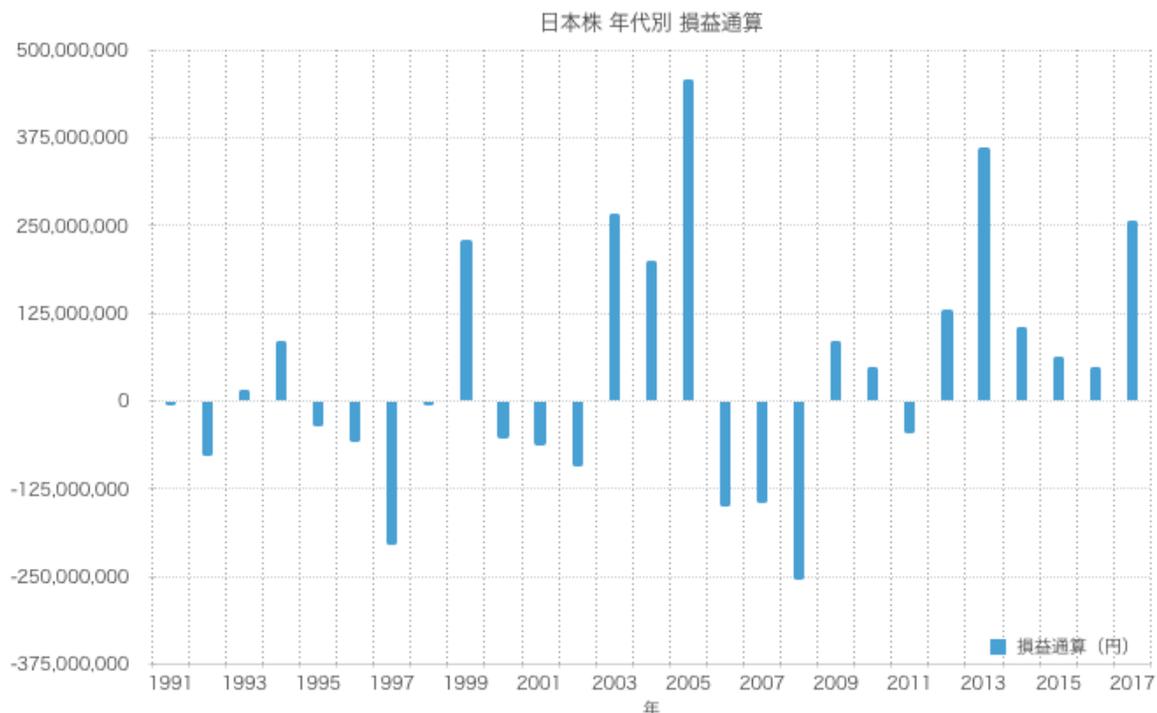
※1991～2017年の株式市場を統計分析した結果から得たものです

あなたは、お金の教育を受けていないことや、一部の人が隠す株式投資の不都合な真実によって、利益を上げるのに間違った知識を刷り込まれてしまっています。隠されているだけでなく、手軽に手に入れられる情報は、根拠もなく…ましてや再現性もなく、あなたに間違った知識を刷り込もうとしているのが見えてきます。

もし、そのまま間違った知識を刷り込んだまま、株式投資をしている場合は、この「日本株 5 の原則」を知れば、その間違いを解決し、あなたのことを正しい方向へ導いてくれるでしょう。では、これからその「日本株 5 の原則」のうちの「2つ」をお届けします。

原則 1: 日本株は上がりやすい？ それとも…

日本株は上がりやすいか？ それとも下落しやすいか？ どちらでしょうか…と聞かれたら、あなたはどうか答えるのでしょうか？ こちらのグラフを見てください。このグラフは、1991年から2017年の期間に、全ての日本株を年初に買って年末に売却したら、どのような結果になるかをデータ分析した結果です。

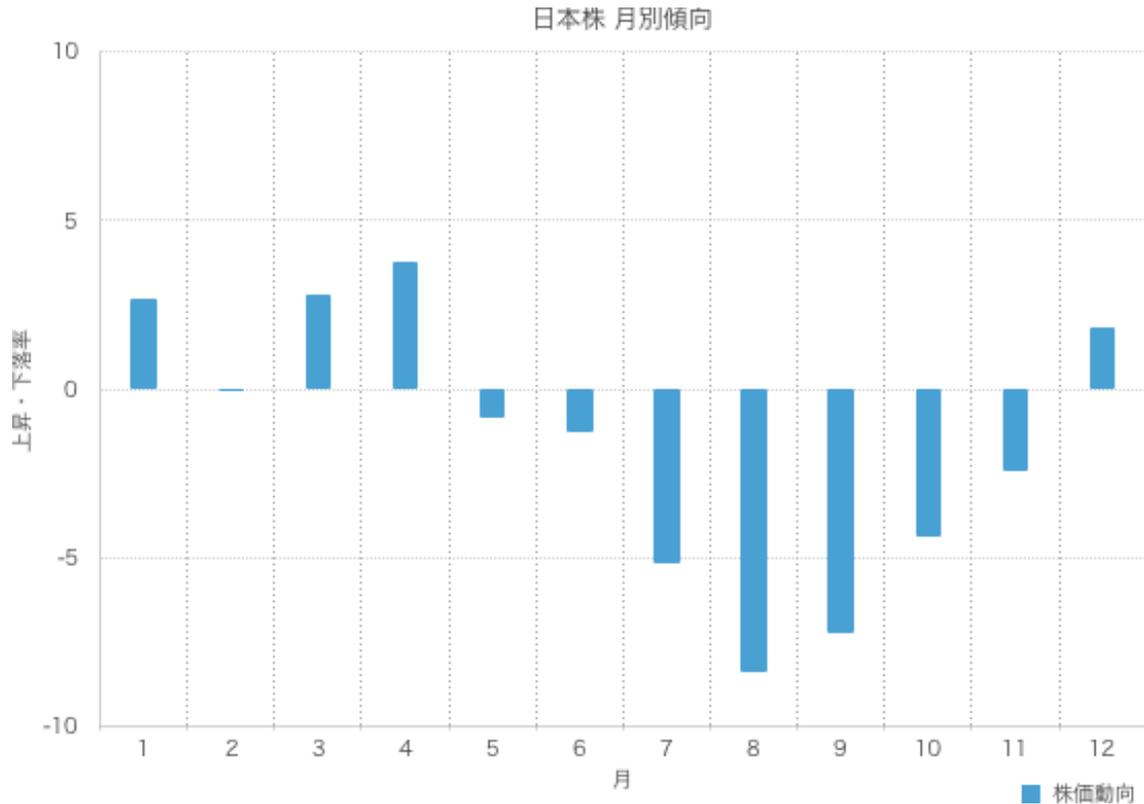


縦軸の真ん中よりも、グラフが上に伸びているのは、株価に上昇傾向が見られる年です。反対に下に伸びているのは、下落傾向が見られる年です。上昇傾向にあるのは過去 27 年間で、14 年です。勝率に換算すると 53%なので、上昇傾向にあると考えられます。しかし、約 50%の確率ということは、半々の確率なので、あまり考えずに売買をしてしまうと、ギャンブルのようになりかねないでしょう。

また、過去 26 年間を振り返ると、2011 年より以前は統計的に見て、4 年以上上昇続けたことはありません。そこから考えると、2012 年以降 6 年連続で上昇しているのは、異常値である可能性があるでしょう。もしくは、ここから新しい傾向ができる可能性もあります。しかしながら、新しい傾向期待するには、ここから 15 年程度の統計データが必要です。それを考えると、「これからは上昇傾向に変わった!」と判断するよりも、それ以前の傾向を踏まえて、上昇の可能性も、下落可能性も、どちらの確率もあると考えて売買したほうが良いと考えられるでしょう。

まさに、これが日本株の根幹の「原則」です。この原則を知っているだけでも、売買方法が変わるでしょう。上がるか、下がるかの確率が半々であれば「厳密に売買しないと負ける可能性が高くなる」と考えられます。だから、賢明な個人投資家であるあなたは、「経験とカンと思いつき」のような投資は絶対に避けるではないでしょうか？

このように、たった一つでも原則を知っているかで、売買方法が変わります。そして、もう一つ見ていただきたいのが、このグラフです。このグラフは、1991 年から 2017 年の期間に、全ての日本株を毎月、月初に買い月末に売買した場合の結果です。



これも先ほどのグラフと同様に、縦軸の真ん中より上に伸びているのは上昇傾向があり、下に伸びているのは、下落傾向があることを示します。いかがでしょうか？日本株は、上昇している月が限られていることがわかります。年末から春先までは上昇傾向ですが、5月から11月の期間は下落傾向であることがわかります。

特筆すべきは「8月」に売買をすると、負ける確率が一年の中で最も高いということでしょう。これは残りの「法則」を見るとより詳細に分かりますが、8月は商いが薄くなることから、ちょっとした悪材料で、通常よりも大きく下落する傾向があります。そして、この時期は、夏季休暇などで普段株式投資をしない人が、この期間を利用して売買をしようと動きがちな時期です。つまり、そのような人が必要以上に損失を受ける傾向が見られます。つまり、ここから分かるのは、8月中に売買をするのは「しっかりとした裏付け」がないと、負ける確率が高くなるということでしょう。

反対に、8月が底値付近という考え方もあります。8月に買い付け、上昇傾向がピークを迎える4月まで保有し続けるという戦略も考えられるかもしれません。ただし、ここで注意しなければならないのは、年単位でみると上昇と下落が半々の確率であることです。その背景もふまえると、より精度の高い戦略を構築することができるのではないのでしょうか。

きっと、今ここでこの原則を知った賢明な投資家であるあなたは、あなた独自の戦略が思い浮かんでいるでしょう。反対に、もしこれを知らずに売買することを考えたら、怖いのではな

いでしょうか。

もし、あなたがこれまで売買を振り返り、下落傾向がある「5～11月」に売買しているのであれば、上手くいかなかった理由が明確になり、今後はこの期間での売買を控えるかもしれません。反対に、上昇傾向のある「12～4月」に売買しているのであれば、上手くいっている理由が明確になるでしょう。しかも、それはこの原則にそった売買なので再現性が高く、毎年継続することが可能かもしれません。

また年毎の傾向を考慮すると、常に上昇と下落のどちらに傾くか分からないので、「経験とカンと思い込み」の売買は避けるのではないのでしょうか。もしくは、投資の結果を1年で考えず、できるだけ長期的な視点で考えるようになるかもしれません。仮に今年負けても、その次の年は上昇傾向で、利益を上げるチャンスになるかもしれません。そうなると、今度は一回の大きな負けを回避し、小さな負けをしても良いが長期的に投資が継続できる方針になるかもしれません。

繰り返しになりますが、このような「原則」知っているか？それとも知らないか？で全く投資への心構えやスタンス、戦略が変わります。そして、これは結果的に、いつも「高値掴みしてしまう投資家」と、いつも「底値付近で買える投資家」の違いとなるでしょう。だから、株式投資で利益を上げるには、このような「原則」を知ることが必須だと考えられるでしょう。それにも関わらず、多くの個人投資家は、誤った知識を刷り込まれ、このような法則を知らずに投資を続け、プロ投資家にカモにされてしまうのでしょうか…

もう、あなたはこの株式市場の「原則」の重要性を十分にご理解いただけたいと思います。これを知ってしまうと、**知らずに株式投資をすることに恐怖さえ感じるのではないのでしょうか。同時に、「もっと原則を知っていれば、自分も底値付近で買い、天井付近で売ることができるのではないだろうか？」**と思うのではないのでしょうか。

そこで、ここからは残りの「原則」を見ていきましょう。まず見ていきたいのが「月別の原則」です。先ほど、日本株の月別の傾向を見ましたが、これには続きがあります。まだ、この段階では「大まかな原則」を把握しただけで、実践向きではありません。

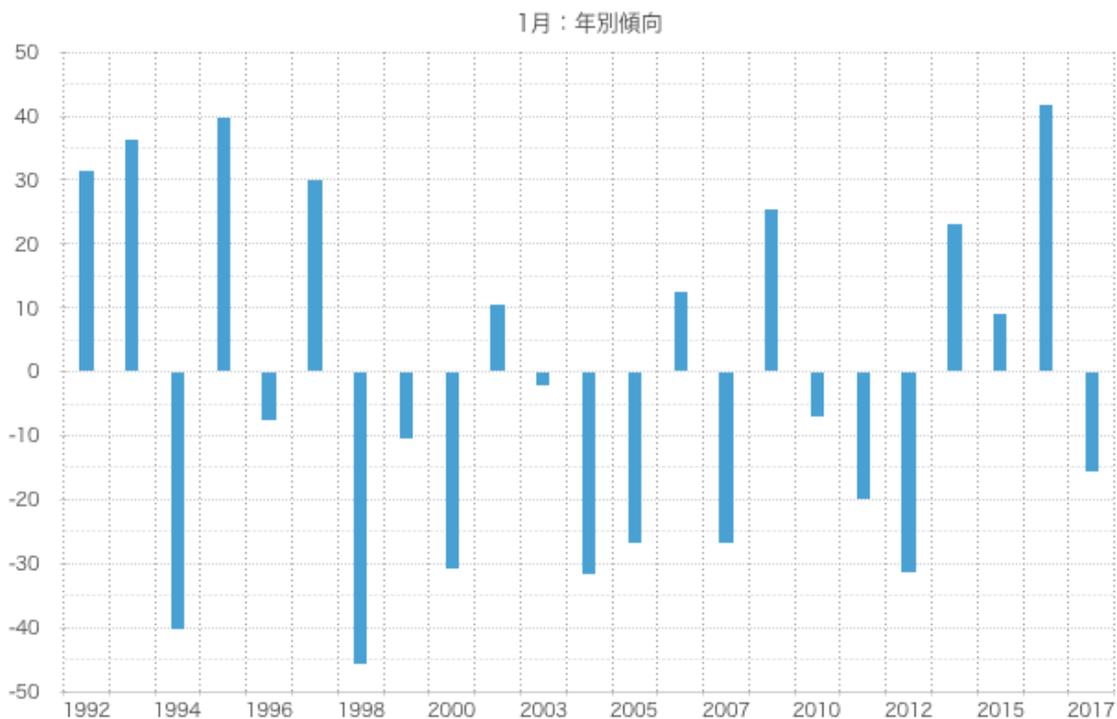
賢明な投資家であるあなたであれば、疑問に思うのではないのでしょうか。「あのとき利益を上げたのは、あの月だったけど…それは傾向に反しているのか？」と。まさに、その通りです。どの月もより細かく見ていくと、株式市場全体の動きに反して、上昇傾向が見られたり、下落傾向が見られたりします。つまり、より詳細の原則を把握することで、より実践的な原則を知ることができるでしょう。そこで、「**原則 2：警告!!これを読む前に今月株を買っては…**」を見ていきましょう。

原則 2: 警告!!これを読む前に、今月買っては...

ここでは、原則.1 で日本株市場全体の大きな傾向を把握したのに対して「月別の詳細の傾向」を把握していきます。原則.1 にも、月別の傾向がありましたが、これはあくまでも大きな傾向です。だから、もし、この原則.1 を学んだことで、安易に売買をしてしまうと、非常に厳しい現実が待っているでしょう。野球の投手で例えるなら、マウンドから投げる方法は学んだが、コントロールや変化球を覚えていない状態です。草野球ならまだしも、これではプロの世界では全く通用しません。特に、私たち個人投資家は、しっかり教育を受けたプロと、ほとんど教育を受けていないアマチュアが混在する株式市場に挑んでいます。もし、この状態でプロの打者と対戦したら、カンタンに打たれて惨敗します。これが株式市場であれば、プロが個人投資家である私たちをカモにして、利益を上げることになるでしょう。つまり、「原則.1」だけではなく、この「原則.2」も知ることが、個人投資家のあなたにとって重要なのです。そこで、私たち個人投資家が、彼らのカモにされることなく利益を上げていくために必要な「原則.2」を月別に見ていきましょう。

1 月の傾向は？

このグラフは、1 月の月初に日本株全てを買い付け、月末に売却したときの結果を表したものです。もし、月初に買い付けた株式が、月末に上昇していれば、それは利益になります。反対に、下落していれば、それは損失になります。つまり、このような売買をしたときの損益を見ると、この月は上昇しやすい傾向があるのか、それとも下落しやすい傾向があるのかを把握することができます。そして、その傾向を年別に表したのが、以下のグラフです。



このグラフは、「原則1：日本株は上がりやすい？それとも…」と同様に、グラフが上に伸びていれば上昇傾向があり、下に伸びていれば下落傾向があると考えられます。それをふまえて、このグラフを見ると、1992～2017年のデータを見る限り、上昇と下落を繰り返しているような印象を受けるのではないのでしょうか？

実は、ここが重要なポイントです。確かに、過去のデータ全体で見れば、上昇傾向があると分かりました。しかし、決して上昇一辺倒ではないのが重要なポイントです。勝率を確認するとデータ分析の結果「52.68%」という結果がでました。これは、50%を超えていれば、上昇傾向があると判断できます。ですが、超えた範囲は2.68%なので、それほど大きくはありません。つまり、ここからは以下のようなことが読み取れるでしょう。

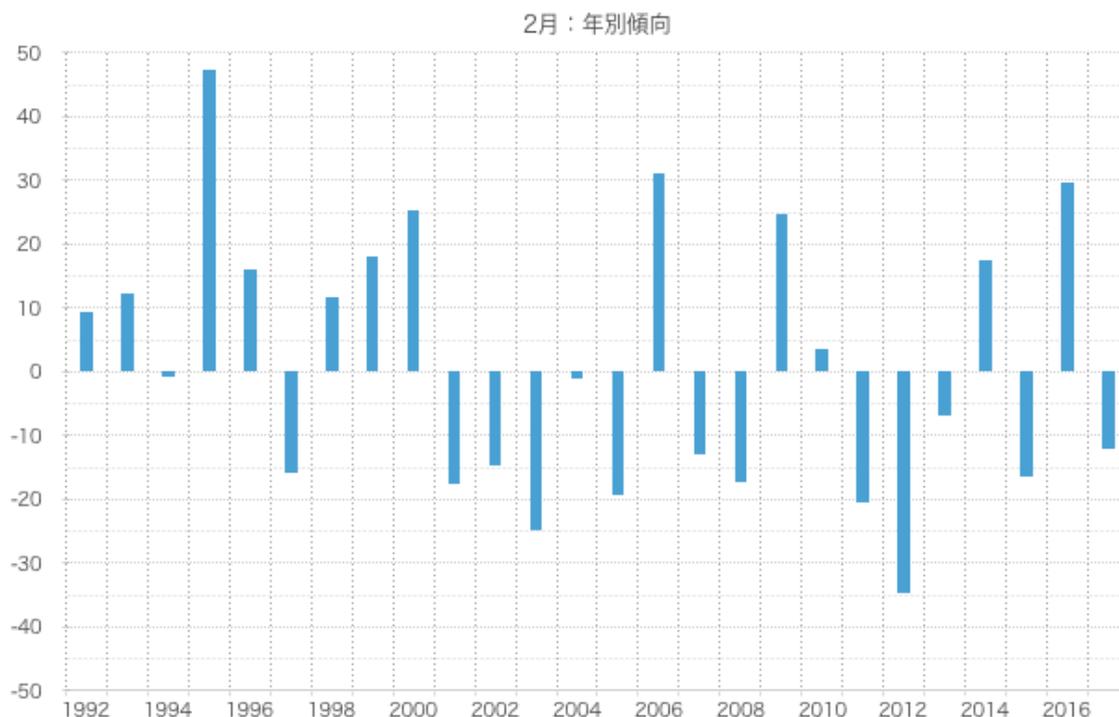
1月のポイント

- ☑ **上昇傾向はあるが、上昇一辺倒ではなく、上昇と下落を繰り返している**
- ☑ **上昇傾向はあるが、大幅な上昇ではない**
- ☑ **上昇傾向だが、下落する可能性も考慮しながら売買する必要がある**

あなたが「原則1：日本株は上がりやすい？それとも…」の情報だけで、この1月の株式市場に挑んでいたら、どのような現実が待っていたのでしょうか？運良く、上昇するタイミングに合えば良いですが、運悪く下落傾向のあるときに合ってしまったら損失を抱えることになるでしょう。よって、賢明な個人投資家であるあなたは、ここから、「1月は上昇傾向だが、下落する可能性も考慮しながら、トレードする必要がある」を分析したのではないのでしょうか。これが、原則.1だけでなく、原則.2もしっかりと学ばないといけない理由です。では、2月から12月を順番に見ていきましょう。

2月の傾向は？

このグラフは、1月と同様、2月の月初に日本株全てを買い付け、月末に売却したときの結果を表したものです。



あなたは、ここからどのようなことを読み取るでしょうか。原則.1では、ほとんど上昇しているか、下落しているか分からないグラフでした。2月の過去の勝率を見ると「49.95%」です。50%から0.05%しかマイナスでありません。つまり、上昇傾向と下落傾向は半々だということでしょう。グラフを見ても、同様の印象を受けるのではないのでしょうか。

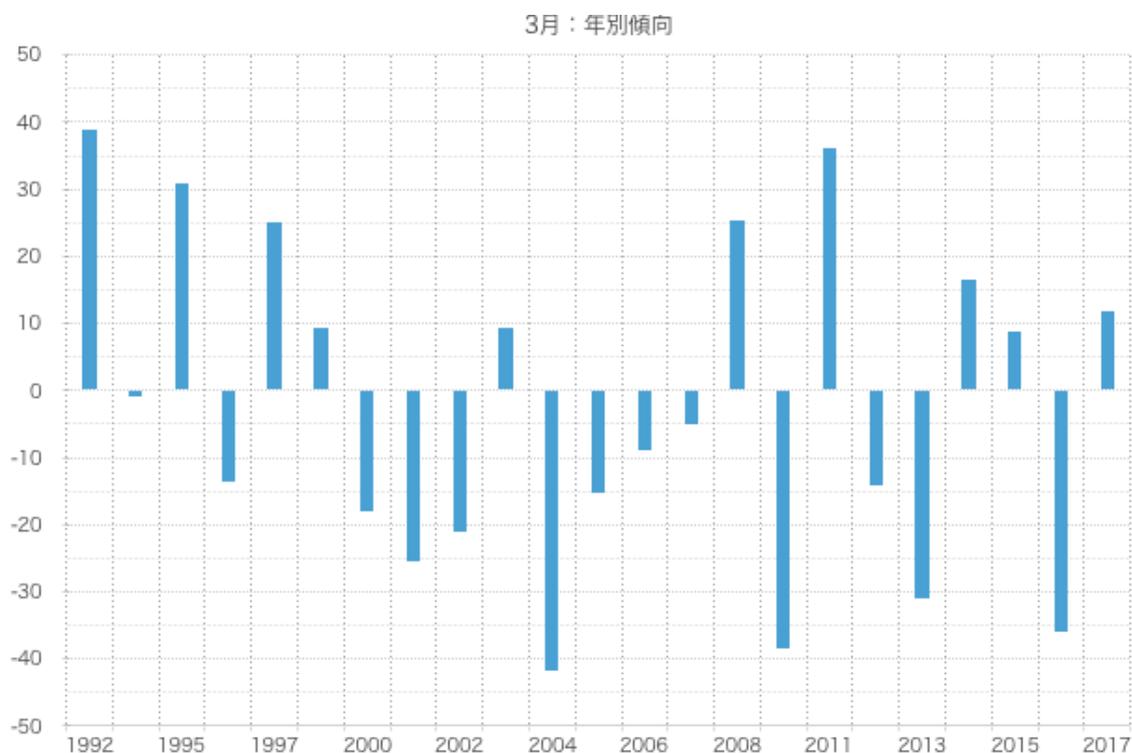
2月のポイント

- ☑ 上昇と下落の可能性は、ほぼ半々
- ☑ 慎重に買い付けないと、下落傾向にある銘柄だけを保有してしまう可能性がある
- ☑ 1月よりも、厳密な投資やトレードが求められる

同時に、これが2月の重要なポイントです。上昇と下落の傾向が半々ということは、買い付ける銘柄次第で、利益になる可能性もあれば、損失になる可能性もあるということでしょう。もちろん、長期的に見れば、その可能性は変わります。ですが、1ヶ月間保有したときを想像してみてください。目の前の値動きに翻弄されるよりは、翻弄されないほうが良いかと思います。それをふまえると、この2月はできるだけ慎重に買い付ける必要があるでしょう。言い換えると、厳密な投資やトレードが求められるのが、この2月の株式市場なのでしょう。では、次は3月を見てみましょう。

3月の傾向は？

このグラフも同様に、3月の月初に日本株全てを買い付け、月末に売却したときの結果を表したものです。



あなたは、ここからどのようなことを読み取るでしょうか。原則.1では、上昇傾向が見られました。ただし、グラフを見ると、上昇一辺倒ではないことに気がつくでしょう。上昇傾向は見られるが、ときおり大幅な下落が見られるのは、1月と似ているかもしれません。過去25年間のデータを見る限り、上昇と下落を繰り返しているような印象を受けるのではないのでしょうか。勝率を確認するとデータ分析の結果「52.77%」でした。これもほぼ1月変わらない結果です。つまり、ここからはこのようなことが読み取れるでしょう。

3月のポイント

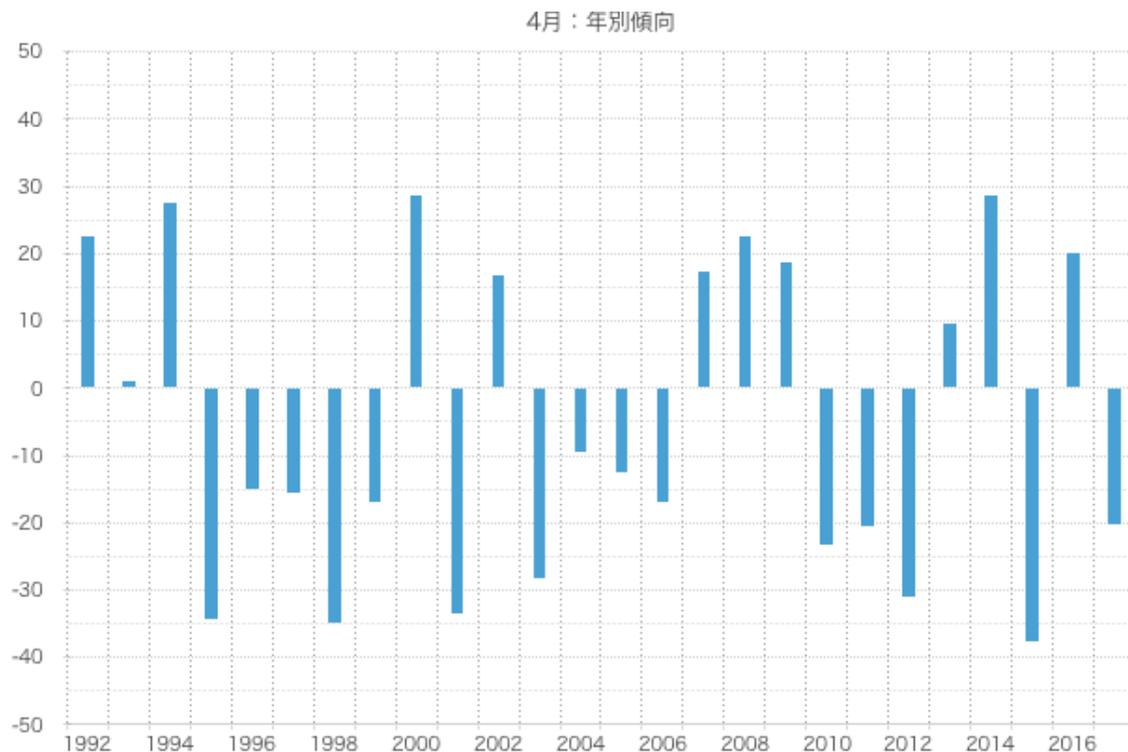
- ☑ 上昇傾向はあるが、上昇一辺倒ではなく、上昇と下落を繰り返している
- ☑ 1月よりは上昇を期待できるが、大幅な下落が見られるときもある
- ☑ 上昇傾向だが、下落する可能性も考慮しながら売買する必要がある

1月よりは上昇傾向が見られますが、下落時の大きさを見ると、同様に下落も考慮しながらトレードや投資をする必要があるのではないのでしょうか。楽観的に株式市場を見てしまうと、思わぬタイミングで損失を抱える可能性もあるということでしょう。では、4月を見てみ

ましょう。

4月の傾向は？

このグラフも同様に、4月の月初に日本株全てを買い付け、月末に売却したときの結果を表したものです。



あなたは、ここからどのようなことを読み取るでしょうか。原則.1では、上昇傾向が見られました。ただし、このグラフを見ると、3月と同様に上昇一辺倒ではないことに気がつくでしょう。むしろ、グラフの印象としては、下落傾向が強いように見えるのではないのでしょうか。勝率を確認するとデータ分析の結果「53.8%」でした。上昇傾向のある1月と3月と比較しても、4月のほうが上昇傾向を確認できます。つまり、ここからはこのようなことが読み取れるでしょう。

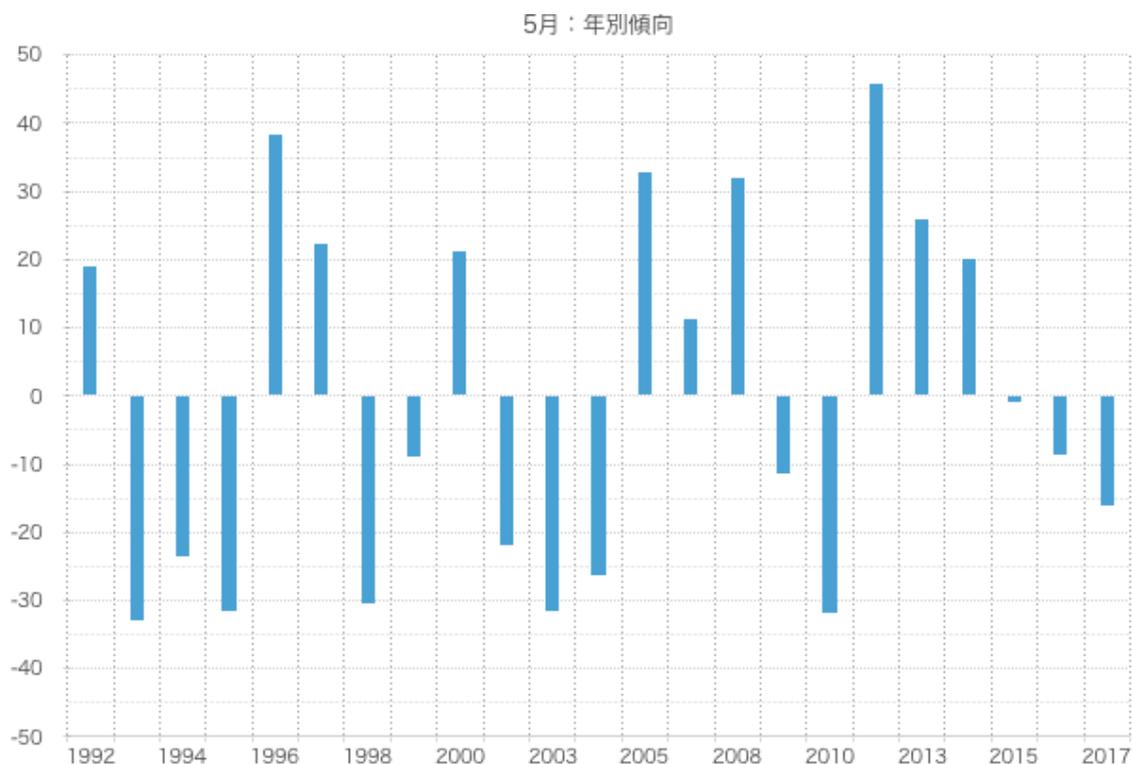
4月のポイント

- ☑ 上昇傾向だが、上昇一辺倒ではなく、上昇と下落を繰り返している
- ☑ 5年連続で下落するときも過去にある
- ☑ 上昇の確率が高いが下落傾向が強いときもあるので、慎重に売買する必要がある

4月は、上昇傾向が1月や3月比べて強いですが、その反面、下落傾向が強いときもあることが読み取れました。特に、注意したいのは5年連続で下落が続いたときがあることです。もし、そのようなタイミングで売買すると、ここで資金を失い、株式市場から撤退しなければならないかもしれません。そうならないためにも、できるだけ慎重に売買する必要があるでしょう。では、5月を見てみましょう。

5月の傾向は？

このグラフも同様に、5月の月初に日本株全てを買い付け、月末に売却したときの結果を表したものです。



あなたは、ここからどのようなことを読み取るでしょうか。原則.1では、下落傾向が見られました。ただし、このグラフを見ると、下落一辺倒ではないことに気がつくでしょう。過去25年間のデータを見る限り、上昇と下落を繰り返していることが分かります。ただし、注意しなければならないのは、下落時の幅を見ると、ある程度一定しているということです。もし、ここにばらつきがあったり、数年だけ大きな下落があったりするのであれば偶然性が高いでしょう。しかし、この5月は、一定した下落が見られます。勝率も「49.14%」ですので、厳密に売買しないと、やはり下落する銘柄を売買する可能性があるでしょう。同じ下落傾向が見られた2月は、その下落幅が0.05%でしたが、5月は0.86%です。つまり、ここからはこのようなことが読み取れるでしょう。

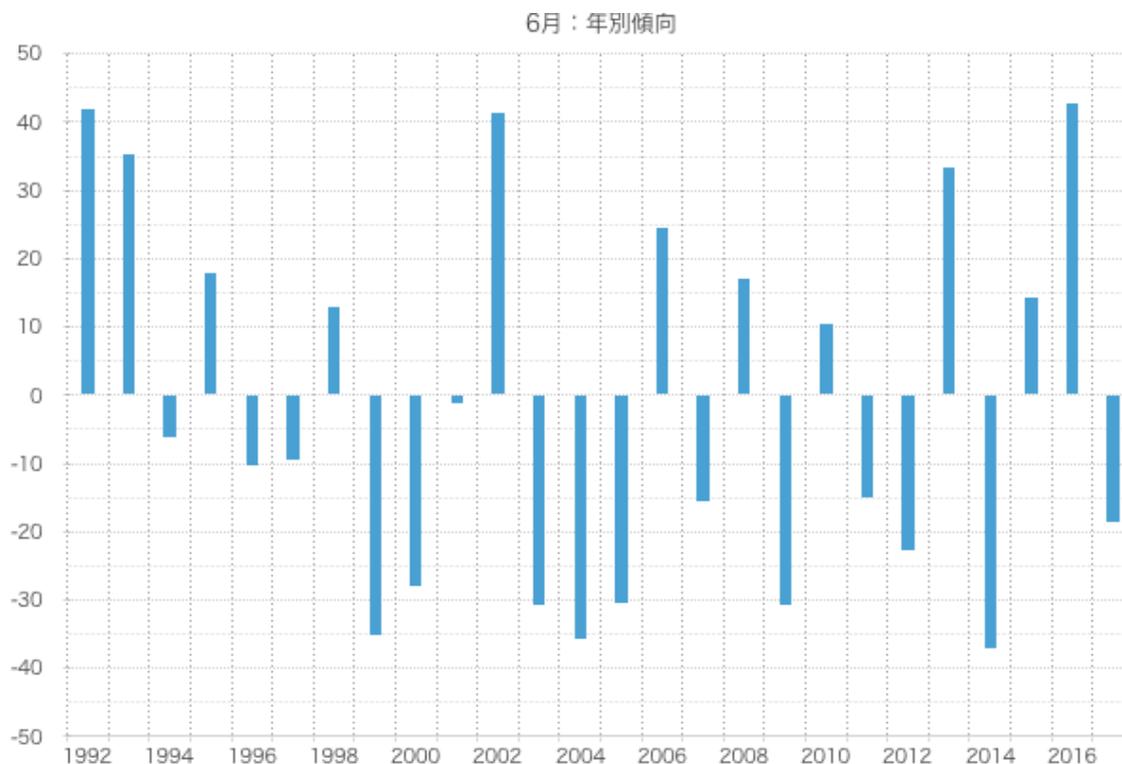
5月のポイント

- ☑ 上昇する年もあるが、下落幅が一定で下落傾向が見られる
- ☑ 2月よりも下落幅が大きい
- ☑ 下落傾向が、やや強いので利益を上げることよりも、損失をできるだけおさえる必要がある

5月は下落傾向が、やや強いと読み取れました。また、2月よりも下落幅が大きいです。それをふまえると、利益を上げることよりも、損失をいかに受けないようにするかを考えて売買するのが良いかもしれません。4月までは、下落する可能性も意識しながら利益を狙う思考でしたが、5月は「損失を受ける確率を下げる」という全く反対の思考で売買するのが良いかもしれません。では、6月を見てみましょう。

6月の傾向は？

このグラフも同様に、6月の月初に日本株全てを買い付け、月末に売却したときの結果を表したものです。



あなたは、ここからどのようなことを読み取るでしょうか。原則.1では、下落傾向が見られました。ただし、このグラフを見ると、5月に比べ下落傾向が強くなってきた印象を受けま

す。上昇している年もありますが、下落がより強くなってきたように見えます。勝率は「48.74%」です。5月よりも、やや下落が強くなってきました。特に下落は、1999年以降強くなっています。つまり、ここからはこのようなことが読み取れるでしょう。

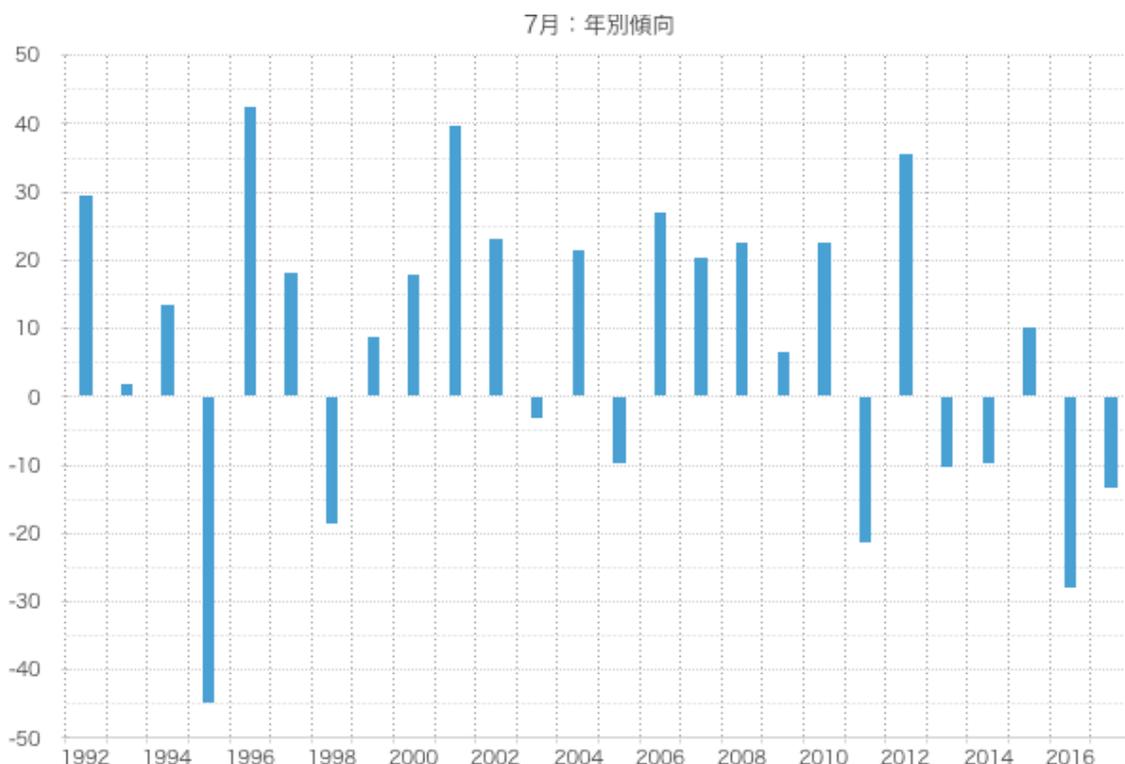
6月のポイント

- ☑ 上昇する年もあるが、5月よりも下落が強くなっている
- ☑ 大きく上昇するときもあるが、ばらつきがある
- ☑ 下落傾向が、5月よりも強くなっているため、5月と同様に利益を上げることよりも、損失をできるだけおさえる必要がある

6月は、下落傾向のある5月よりも下落傾向があることが読み取れました。上昇するときもありますが、上昇幅には、ばらつきが見られます。これらを考慮すると、上手いけば利益になるが、下落傾向の強い銘柄を買い付けてしまうと、損失を受ける可能性があるでしょう。よって、5月と同様に、6月も「損失を受ける確率を下げる」という思考で売買するのが良いかもしれません。では、7月を見てみましょう。

7月の傾向は？

このグラフも同様に、7月の月初に日本株全てを買い付け、月末に売却したときの結果を表したものです。



あなたは、ここからどのようなことを読み取るでしょうか。原則.1 では、下落傾向が見られました。ただし、このグラフを見ると、面白いことに気が付きます。過去のデータの全体でみると下落傾向は5月や6月に比べて強くなっていますが、単年でみると、上昇している年が多いことに気がつくでしょう。どちらかと言うと、1995年に大幅な下落があったことで、これが影響していると考えられます。しかし、勝率は「44.86%」なので、数字上では下落が、5月や6月と比べ強くなっていることが明確です。つまり、ここからはこのようなことが読み取れるでしょう。

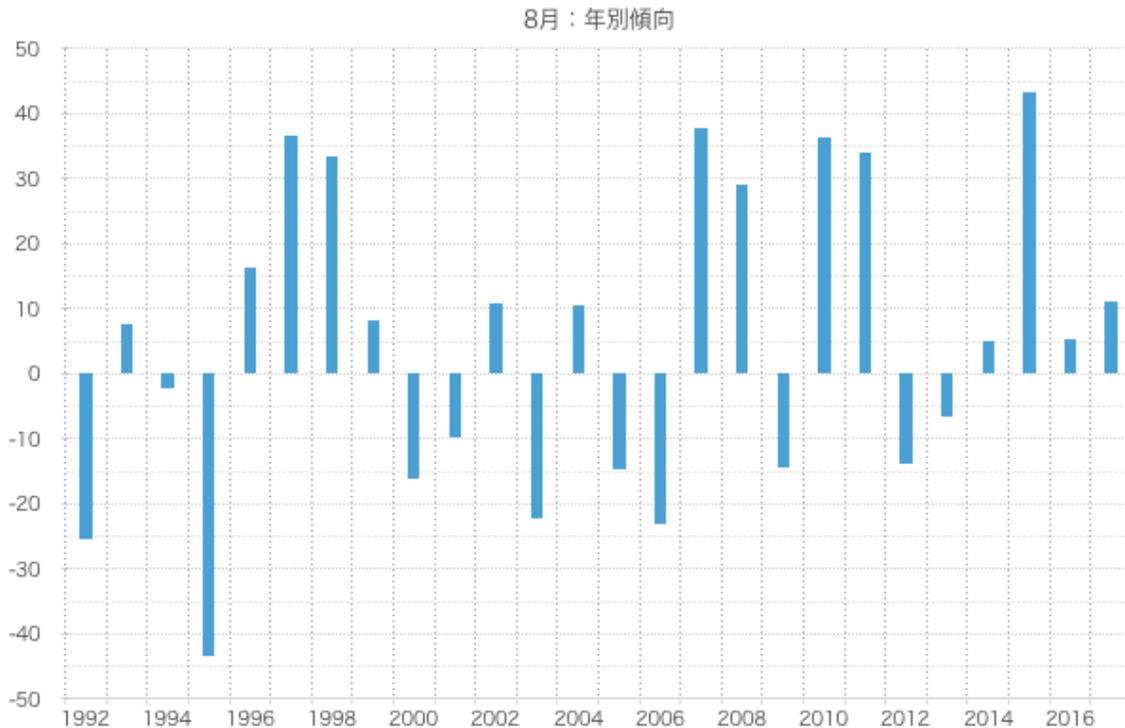
7月のポイント

- ☑ **1995年の大幅下落を除けば下落傾向は強くない**
- ☑ **2010年以降だけを見ると下落傾向が強い**
- ☑ **直近8年のうち5年は下落傾向が強いので利益を上げることよりも、損失をできるだけおさえる必要がある**

7月は、1994年をデータから除けば、上昇傾向があるように見えます。しかし、2010年以降の8年のうち5年は下落傾向があります。また、上昇している3年のうち1年は、それほど大きな上昇ではありません。よって、この直近の傾向もふまえると、5月や6月よりも、より損失をおさえることを考えて売買する必要があるでしょう。もちろん、楽観的に見て、上昇の機会が多いとも考えられます。しかしながら、株式市場がどのように動くかは、誰にも分かりません。それを考慮すると、最悪の場合を想定して売買するのが良いでしょう。そういった背景もふまえて、利益よりも損失をおさえる考えで売買を続けたほうが、結果的には利益を狙うことができるのではないのでしょうか。では、8月を見てみましょう。

8月の傾向は？

このグラフも同様に、8月の月初に日本株全てを買い付け、月末に売却したときの結果を表したものです。



あなたは、ここからどのようなことを読み取るでしょうか。原則.1では、下落傾向が見られました。ただし、このグラフを見ると、7月と同様に面白いことに気が付きます。全体で見ると下落傾向は5~7月に比べて強くなっています。しかし、単年で見ると、上昇している年が多いことに気がつくでしょう。特に直近4年間は上昇が確認できます。しかし、勝率は「41.63%」です。な7月と比べ強くなっていることが明確です。つまり、ここからはこのようなことが読み取れるでしょう。

8月のポイント

- ☑ 単年で見ると上昇している年が多い
- ☑ 2007年以降の約10年間は上昇傾向が強いが、長期的には下落傾向が強い
- ☑ グラフの見た目よりも損失が大きくなることを考慮し、損失をできるだけおさえる必要がある

8月は、グラフでは上昇傾向が見られ、数字上では下落傾向が見られます。このようなとき、私たちはどのように判断すれば良いのでしょうか。ここも重要なポイントです。株式市場を安易に考えている個人投資家は、ここで「数字上は下落だけど、グラフでは上昇傾向があるから大丈夫だ」と考えてしまうかもしれません。

しかし、ここで注意しなければならないのは「2007年以降の上昇傾向」です。もし、2006年までの期間で分析をしたら、もっと悪い結果が出るでしょう。言い換えると、このもっと

悪い結果を、今の結果まで引き上げたのは、2007年以降の上昇傾向です。悲観的に見ると、この結果は、偶然2007年以降上昇が続いたことで引き上げられたものであり、実際にはそれ以前の期間のように悪くなる可能性があるということでしょう。

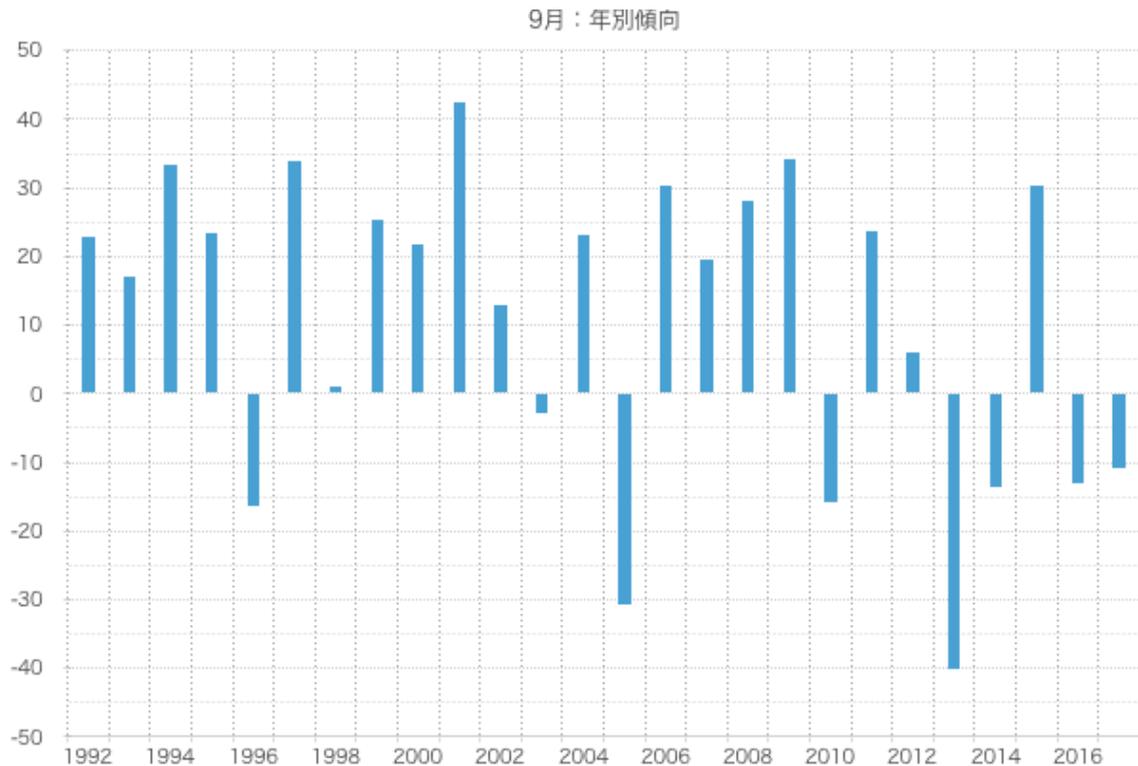
私たちとは違って、賢明ではない個人投資家は、このようなとき「良い結果」を判断材料にしがちです。しかし、それは楽観的に利益を狙いにいくことになり、損失のリスクがあることを忘れてしまっている状態です。

一方、私たちのような賢明な個人投資家は、このようなとき「悪い結果も起こりうる可能性がある」と考え、利益を狙うよりもリスクをおさえることを考えるでしょう。そうすることで、楽観的に利益を狙う彼らよりも利益の大きさは少ない可能性はありますが、損失をおさえることで利益を狙えるでしょう。

このように、8月は詳しい傾向をみると迷いやすい月かもしれません。しかしながら、「利益>損失」ではなく「利益<損失」の比重で株式市場を見て、その思考で売買をすることで、結果的には利益を狙うことができるでしょう。そういった意味では、個人投資家としての根本的な思考や、あなたの投資スタンスを考えられるのが、この8月とも言えるでしょう。では、9月を見てみましょう。

9月の傾向は？

このグラフも同様に、9月の月初に日本株全てを買い付け、月末に売却したときの結果を表したものです。



あなたは、ここからどのようなことを読み取るでしょうか。原則.1 では、下落傾向が見られました。ただし、このグラフを見ると、8月と同様に面白いことに気が付きます。全体を見ると下落傾向がありますが、単年で見ると下落傾向がある年が少ないということです。これは、2012年以降の上昇傾向が弱まり、下落傾向も強くなっていることが原因かもしれません。なお、勝率は8月から少し上昇し「42.79%」です。つまり、ここからはこのようなことが読み取れるでしょう。

9月のポイント

- ☑ 単年で見ると上昇している年が多い
- ☑ 2012年以降の下落傾向が全体の上昇傾向を下けている可能性がある
- ☑ 2012年以降の下落傾向の強まりを意識し、損失をできるだけおさえる必要がある

9月も8月と同様、全体と単年の結果に違う傾向が見られます。また、9月は2012年以降が上昇傾向ではなく、下落傾向にあることで、全体の結果を下げている可能性があります。ここも重要なポイントです。8月と同様、私たちのように賢明ではない個人投資家は、このようなき「良い結果」を判断材料にしがちです。

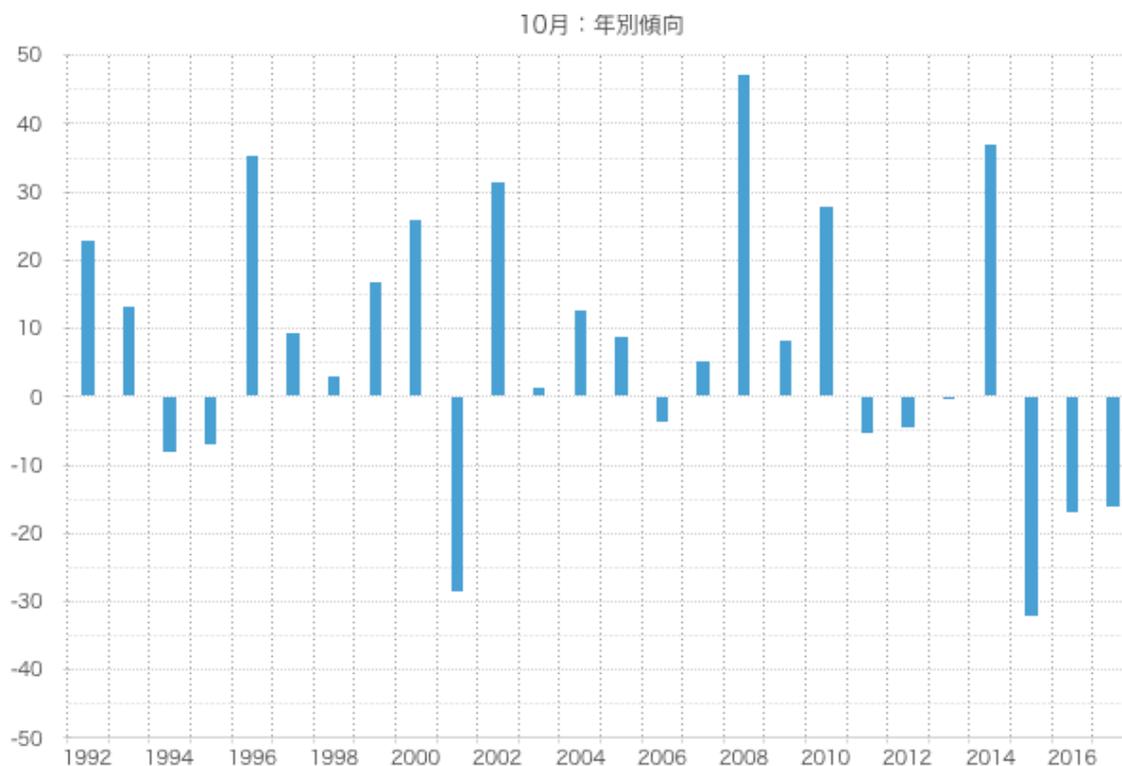
2012年以降に下落傾向が見られるのに、その部分よりも、上昇している部分だけ見て「9月は数字では下落傾向はあるが、以前は上昇傾向だった」と、都合の良い部分だけ取り入れ

て判断してしまいがちです。そうなると、現実で起きるのは、2012年以降の下落傾向に直面し、損失を拡大してしまうということでしょう。8月と全く反対の解釈ですが、彼らのような個人投資家は、楽観的な結果に目がいき、都合の良いデータのみで意思決定しがちです。

反対に、私たちのような賢明な個人投資家は、しっかりと2012年以降の下落傾向の強まりを把握し、その傾向が続くことを考えて売買をするでしょう。これが、利益を上げることができる投資家と、損失を大きくしてしまう投資家の違いです。だから、この9月も、あなたの個人投資家としての根本的な思考や、あなたの投資スタンスを考えられる月と言えるでしょう。では、10月を見てみましょう。

10月の傾向は？

このグラフも同様に、10月の月初に日本株全てを買い付け、月末に売却したときの結果を表したものです。



あなたは、ここからどのようなことを読み取るでしょうか。原則.1では、下落傾向が見られました。ただし、このグラフを見ると、9月と同様に面白いことに気が付きます。全体で見ると下落傾向がありますが、単年で見ると下落傾向がある年が少ないということです。しかし、全体では下落傾向があるのは、2015年以降は上昇傾向が弱まり、下落傾向が強いからかもしれません。なお、勝率は9月から上昇し「45.62%」です。つまり、ここからはこのようなことが読み取れるでしょう。

10月のポイント

- ☑ **単年で見ると上昇している年が多い**
- ☑ **2015年以降の下落傾向が全体の上昇傾向を下げている可能性がある**
- ☑ **2015年以降の下落傾向の強まりを意識し、損失をできるだけおさえる必要がある**

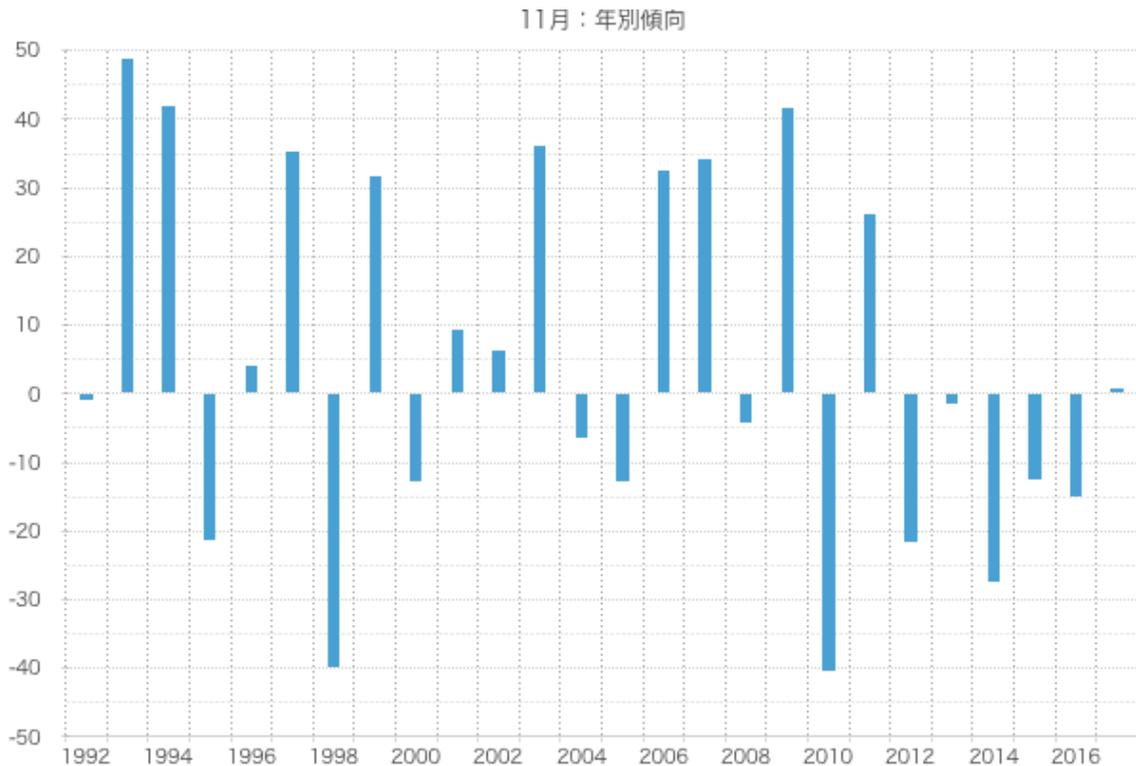
10月も9月と同様、全体と単年の結果に違う傾向が見られます。また、10月は2015年以降が上昇傾向ではなく、下落傾向にあることで、全体の結果を下げている可能性があります。そして、ここでも、賢明ではない個人投資家と、私たちのように賢明な投資家の違いがでます。

私たちと違って賢明ではない個人投資家は、2015年以降の下落傾向の強まりを気にせず、それ以前の上昇に注目するでしょう。グラフを見ると、2013年以前に大幅な下落は2001年以外見られません。むしろ、上昇していることが多いので、楽観的に株式市場を見ることでしょう。

一方、私たちのような賢明な個人投資家は、このようなとき2015年以降に3年連続で続く下落傾向に注目します。これを見て、もしかすると4年連続で下落するかもしれないと考えるでしょう。年間を通じて見れば8月から徐々に下落傾向は弱まっていますが、近年の下落傾向の直面したことを想定して、売買するでしょう。よって、この10月は2015年以降の下落傾向が続くことを考慮し、利益を上げることも、損失をおさえることを優先した売買をする必要があるでしょう。では、11月を見てみましょう。

11月の傾向は？

このグラフも同様に、11月の月初に日本株全てを買い付け、月末に売却したときの結果を表したものです。



あなたは、ここからどのようなことを読み取るでしょうか。原則.1 では、下落傾向が見られました。このグラフを見る限り、上昇と下落を繰り返しているように見えます。また、その上昇率と下落率の幅が、他の月に比べ大きく見えます。中でも気になるのは、2010年以降です。大幅に上昇する年が2年ありましたが、それ以外は下落傾向が見られます。なお、勝率は10月から上昇し「47.57%」です。つまり、ここからはこのようなことが読み取れるでしょう。

11月のポイント

- ☑ 比較的大きな上昇と下落を繰り返している
- ☑ 2010年以降は大幅に上昇した2年を除き下落傾向がある
- ☑ 2010年以降の下落傾向の強まりを意識し、損失をできるだけおさえる必要がある

11月も10月と同様、2010年以降に下落傾向が強まり、全体の結果を下げている可能性があります。特に気になるのは、2012～2016年の間は、5年連続で下落傾向が見られることです。2017年はわずかに上昇していますが、再び下落傾向になることも考えられます。

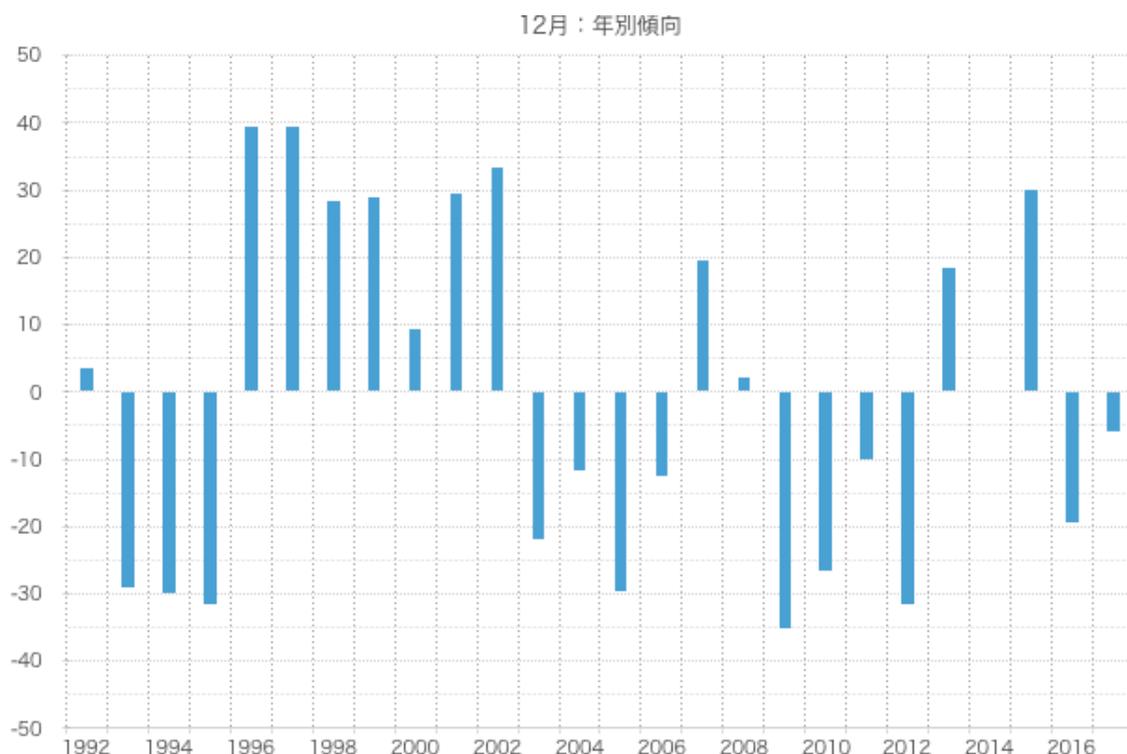
ここでも、賢明ではない個人投資家と、私たちのように賢明な投資家の違いがでます。彼らは、2010年以降の下落傾向の強まりを気にせず、それ以前の上昇に注目するでしょう。実際には、大幅な下落があるので楽観的にとらえないほうが良いですが、彼らはこのような部分を考えず、自分の判断に都合のよい部分だけ見がちです。

一方、私たちのような賢明な個人投資家は、このようなとき 2012～2016 年間の 5 年連続の下落傾向に着目するでしょう。また、それ以前に、大きな下落傾向があったことも考慮するでしょう。このように、同じデータを見ても、彼らと私たちでは得られる情報が違うというのも興味深いところかもしれません。

また、これはカモにされる個人投資家と、カモにされず利益を狙える個人投資家の違いでもあるでしょう。株式投資の教育をしっかり受けた、私たちのような個人投資家は、このような視点で株式市場を見ますが、彼らは楽観的に見てしまい、現実で痛い目をみる傾向があるでしょう。そういった意味でも、この 11 月は上昇一辺倒ではないだけに、これまでと同様あなたの個人投資家としての根本的な思考や、あなたの投資スタンスを考えられる月と言えるでしょう。最後に、12 月を見てみましょう。

12 月の傾向は？

このグラフも同様に、12 月の月初に日本株全てを買い付け、月末に売却したときの結果を表したものです。



あなたは、ここからどのようなことを読み取るでしょうか。原則.1 では、上昇傾向が見られました。ただし、グラフを見る限り、上昇傾向はありますが、1 月と同様、上昇と下落を繰り返しています。上昇傾向にあるからと言って、決して上昇一辺倒ではないことが読み取れるでしょう。また、やや気になるのは下落傾向があるときは、何年か連続で下落傾向がある

ことです。なお、勝率は 11 月から上昇し「51.84%」です。つまり、ここからはこのようなことが読み取れるでしょう。

12 月のポイント

- ☑ 上昇傾向はあるが、上昇一辺倒ではなく、上昇と下落を繰り返している
- ☑ 下落傾向が始まると、2~4 年連続で下落傾向がみられる
- ☑ 12 月は上昇傾向だが、下落する可能性も考慮しながら売買する必要がある

上昇傾向がみられた 1 月に似ています。しかしながら、1 月と違い、一度下落した年があると、2~4 年連続で下落が続く傾向も見られます。また、勝率も 50%を超えていますが、「51.84%」にとどまっているので、上昇傾向も下落傾向の両面を考えて売買するのが良いでしょう。

以上が 1 月~12 月の傾向です。そして、これが「原則 2：警告!!これを読む前に、今月株を買っては…」です。このように、日本株市場全体の大まかな傾向だけでは見えなかった部分が、この月ごとの傾向から見えてくることが実感いただけたのではないのでしょうか。上昇傾向が見られるといっても、それは上昇一辺倒の上昇なのか、それとも下落と背中合わせの上昇なのか、そのような違いがあります。下落も同様です。だからこそ、この原則とも言える「株式市場の値動きの傾向」を知識としていれておくことが結果的に・・・

いつも「高値掴み」してしまう投資家」と、 いつも「底値付近で買える」投資家の違い

になり、あなたがどちらの投資家になるかを左右するものと言えるでしょう。もちろん、賢明な個人投資家であるあなたは、この原則とも言える値動きの傾向を理解しています。だから、決して彼らのような道を歩むのではなく、原則を知る賢明な個人投資家の道を歩み続けるでしょう。

しかし、ちょっと待ってください。果たして、この 2 つの原則だけで、株式投資は上手くいくのでしょうか？カンの良い個人投資家のあなたであれば、これだけで準備が整っているかもしれません。ですが…もし、さらにもう一つの原則で「今月…絶対に買ってはいけない業種~ワースト 3~」が分かったらどうでしょうか？反対に上昇傾向にある業種~ベスト 3~が分かったらど

うでしょうか？次の原則を含めた「残り3つの原則」は、こちらから無料でお受取りください。

[>>無料で今すぐ「残り3つの原則」を受け取る<<](#)

警告!!

この原則を知る前に投資をしてしまうと…

株式投資で利益を上げるには「日中株価を見続けること」「上がりそうな銘柄を見つけること」が重要ですよ？…残念！違います。これらのことを知る前に、もっと重要なことがあります。もちろん、ここまでお読みいただいた賢明な投資家のあなたであれば、もうお気づきでしょう。

重要なのは「日本株5つの原則」であることは、もう実感いただけたのではないのでしょうか？はじめは「原則」と聞いてもピンとこなかったかもしれません。ですが、株式市場では原則を「傾向」とも置き換えられます。

長期にわたり安定的に利益を上げている投資家に話を聞くと、ここに書かれている原則とも言うべき傾向は把握していることが多いです。むしろ、これは前提でしょう。ここに加えて、各自「日本株の原則」を発見し、それを活用している傾向があります。もちろん、私もその一人で、私の場合はこの原則を利用した「システムトレード」というトレード法を採用しています。そして、新しい原則を発見することを怠らないようにし、長期にわたり安定的に利益を上げることを狙っています。しかも、私の場合はシステムトレードなので、日中株価を見ることもなければ、株価に影響のあるニュースを追いかけることはありません。日によっては、株式市場が暴落したことも知らず、戦略から抽出された銘柄を見て「ずいぶん多いけど、暴落が起きたのかな？」と思うくらいです。

「安く買って高く売れる投資家」と「高く買って安く売れる投資家」の違い

<h3>高く買って安く売れる投資家</h3>	<h3>安く買って高く売れる投資家</h3> <p>(システムトレーダー)</p>
------------------------	---



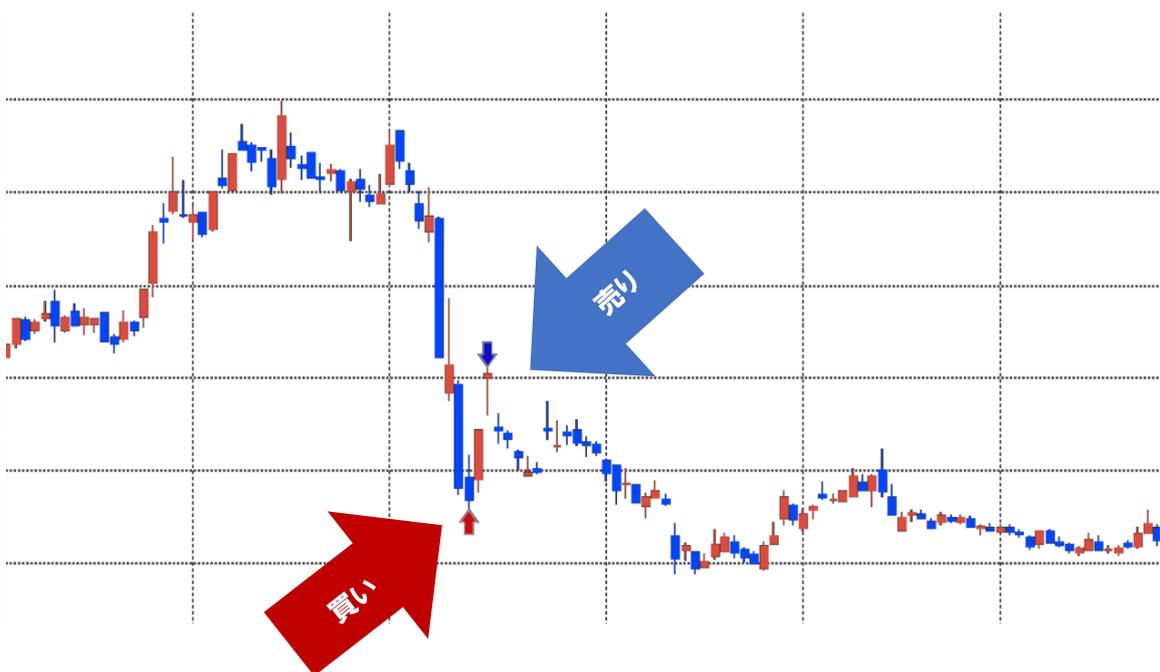
<input checked="" type="checkbox"/> 経験とカンと思い込みで、底値と天井を考える	<input checked="" type="checkbox"/> 「日本株の原則」をもとに底値付近と天井付近を考える
<input checked="" type="checkbox"/> 1日など、短期間でどれくらい利益を上げられるかが関心事	<input checked="" type="checkbox"/> 長期にわたり、どれくらい安定的に利益を積み上げられるかが関心事
<input checked="" type="checkbox"/> 大金を得ることに注力(1億円や2000万円の数字に飛びつく)	<input checked="" type="checkbox"/> 利益を得る再現性の高い「法則」を知ること注力

それくらい、世間一般でいう投資家のイメージとは違った方法で利益を狙っています。ただし、繰り返しになりますが、これができるのは「原則」を知り、「株価はこう動く傾向がある」という原則を日々アップデートし、たくさん知っているからです。反対に言えば、その原則さえ知っていれば、あなたも私と同じように暴落したところで慌てることはありません。むしろ、それが原則に沿った動きをしているのであれば、利益を上げるチャンスと考えることができるでしょう。そして、その原則を知れば知るほど、そのような利益を上げるチャンスがあることに気がつくでしょう。では、ここで、もう一度あのチャートを出しましょう。【日本株5つの原則】を知ったあなたが、今このチャートを見たらどう思うのでしょうか？

[パターン.1]このような動きをする銘柄をここで買って、売れますか？



[パターン.2]このような動きをする銘柄をここで買って、売れますか？



[パターン.3]このような動きをする銘柄をここで買って、売れますか？



はじめは、実際にどうやるんだ！と思った売買のタイミングかもしれませんが…あなたがこのような株価の動きをする銘柄の「原則」を知っていたなら、どうでしょうか。まさに、投資家の理想である「安く買って高く売れる投資家」になることも夢ではないでしょう。反対に、高く買って、安く売らなければならない投資家は、原則を知らず「経験とカンと思い込み」で売買をしているので、いつまでたっても難しいでしょう。つまり、この「原則」を知っているか？それとも、知らないか？が・・・

いつも高値掴みをする投資家と、 いつも底値付近で買える投資家の違い

と言えるのではないのでしょうか。だから、この「原則」を知っていれば、あなたは理想の投資家に近づけることに気づくでしょう。あなたは、これまで…

- なぜ、高値掴みをする投資家と、もっと上がる銘柄をつかむ投資家がいるのか？
- なぜ、底値付近で買える投資家と、もっと下落銘柄をつかむ投資家がいるのか？

同じ投資家でも、なぜこのような違いがあるのか、あなたは不思議に思ったことはありませんか？その理由がこれだったのです。

ただし、ここには「5つの原則」のうち、2つまでしか掲載されていません。ぜひ、あなたがより「安く買って高く売れる投資家」になるために、次の原則を含めた「残り3つの原則」を掲載した【完全版】を、こちらから無料でお受取りください。

【無料プレゼント】

日本株「再」入門・完全版（全95ページ）



>>無料で今すぐ「残り3つの原則」を受け取る<<

執筆者プロフィール

高橋 佑輔(たかはし ゆうすけ)

トレード歴 12 年以上の現役ベテラントレーダー。2008 年より開始し、過去 12 年間で 11 年利益を上げる。相場の値動きの「法則」を発見し、その法則を戦略化したシステムトレードで自己資金を運用中。12 年間でたった一度負けがあっただけで、11 年間安定的な成績を上げ、堅実に利益を積み上げる。近年は、システムトレードを用いて GCI グループの自己資金運用会社である GCI キャピタル内の一部門としてのメンバー在籍経験や au カブコム証券主催のセミナー講師の経験あり。現在は、web サイト「IFIS 株/投信コラム」にて【「新」法則で狙う暴落・暴騰銘柄レポート】を執筆中。



【過去 12 年間の成績】

○2008 年 49%	○2014 年 20%
○2009 年 30%	○2015 年 31%
○2010 年 77%	○2016 年 29%
○2011 年 29%	○2017 年 13%
○2012 年 -31%	○2018 年 11%
○2013 年 45%	○2019 年 22%

iTRADE LINE 公式アカウント



お友達追加で
お得な情報お届けします！

【取引に関するリスク】

株式会社シナジスタの提供する、コラム・教育サービスは、投資に関する考え方の一例をご紹介するというものですので、その正確性や完全性等について保証するものではありません。実際の投資はお客様のご判断・ご責任で行って頂くものであり、当社は、お客様の投資におけるいかなる利益も保証するものではなく、また、お客様の投資によるいかなる損害に対しても補償を行うものでもありません。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

株式会社シナジスタ